

四国・水こぼれ話

Water Information Saloon Shikoku

談話室 Vol.70

島の水は宝物

愛媛県 上島町長
うえむら 上村
としゆき 俊之



瀬戸内海に浮かぶ愛媛県上島町の貴重な水は、広島県中国山地の山奥から海底送水管により送られています。

山の樹木が蓄えた水は、下流の町並みや瀬戸内海の島々に年間を通じて不足することなく一定量を供給しているだけではなく、小さな湧き水はやがて川となり、川の石や砂そして植物などの自然の力でさらに浄化され、とても美しくミネラル分を多く含んだ天然水として瀬戸内海にも流れ込み、海の生物をも育てています。

平成元年4月まで上島諸島の島々は全ての面において水不足に悩まされ、簡易水道は整備されていたものの使用時間の制限があり、住民は梅雨時期の降雨量に一喜一憂し、時には少し濁りある水や匂いのある水も辛抱しながら、貯水池に溜まった水を一滴たりとも無駄にしない生活を営んできました。一方で水源を島内に求め、打ち抜きの井戸を何箇所も掘ったり、海水プラントによる淡水化も行うなど、あらゆる手を尽くしましたが満足な水量は得られず、最終的には広島県三原市から水船により運搬した水を買水することで不足分を補い、島人は水について並々ならぬ苦労を強いられてきました。

海底送水管により、島々では慢性的な水不足が解消され、人々は生き生きとし、植物は瑞々しく、生活は一転しました。われわれ住民は、この命の

水に感謝を込め「友愛の水」と名付け、歴史にとどめるべく記念の公園をつくり、記念碑を建立し、未来永劫忘れることのないように心に刻んでいます。

平成3年頃から「友愛の水」を通じて、上流の町（広島県・河内町）と下流の町との小学生による新たな交流が生まれました。言い換えれば、山の子と海の子の交流とも言えるこのイベントは、お互いの地域に無い物を活用しあうことで驚きと感動を実感するものになりました。その後、上流の町の更に源流に位置する町（広島県・福富町）との大人の交流が生まれました。源流の清水を育む山の植樹や管理の協力、お互いの地区の産業イベントに地域の特産品を紹介、販売して、物々交換を行うような地域の交流が行われ、自然で人間の原点に帰ったふれあい交流に発展しています。

豊富な水を有する地域では何でもない「水」が、今の子供たちには空気と同じにしか感じていない「水」が、私たちの住む島では何ものにも換えがたい「宝物」であることを忘れることなく、先人の努力と水源の人々の温かい支えがあることを後世に伝えていくことが、今の私達の最も大きな務めであると感じています。

「島の水は宝物」。友情と愛情を含み生命を潤す水が交流するまち、それが私たちのふるさと「上島町」です。



島の水は宝物・海の水も宝物（有用微生物団子を投入）



下水高度処理水を果樹に供給



源流の町・福富町での植林